

法学教育への反転授業の導入

廣瀬 清英

(受理 2019年12月6日)

Introduction of flipped classes in legal education

Kiyohide HIROSE

I. はじめに

これまでに「講義におけるIT技術の活用とSNS導入事例」¹と「法学教育へのICTの導入による効果」²において、講義シナリオ導入による教育要項の見直しとICTの活用³によって、従来型の座学による知識詰め込み型の講義から反転授業への転換と評価の一部に学生同士の相互評価を導入した成績評価方法について取り上げた。

法学教育における多くの授業は、従来の座学のみ形式が多く、かつての自身の講義も概ねその形式で実施していた。しかも、本務校である岩手医科大学は医療系大学であり、法学を専門としないため、開始時に法学のみならず、文系科目に興味を持たない学生が少なくない⁴。そのため、学生に興味を持たせることからスタートしなければならないことから、まず講義が学生にとって効果的であり、なおかつ、参加意欲の湧く魅力的なものであるかを検討し、

- ① 受講して楽しい（興味・関心が持てる）
- ② 将来との接続性が分かる
- ③ 知識の記憶定着が進む
- ④ 知識の構造化が進む
- ⑤ 創造性に接続できる（知識の活用ができる）
- ⑥ 学生が自分で表現できる

以上を前提とした講義シナリオを導入⁵した。また、座学のみ講義形態は、学生にとって受動的なものであったことから、ICTを積極的に活用することで興味を持たせるきっかけとするとともに、反転授業の導入を検討した。

教育成果（アウトカム）は、現行法について、学問としての法学だけでなく、教養として必要な法律に関する基礎知識を修得することで、「法的なものの見方（リーガルマインド）」と「法を知りつかりこなす力（リーガルリテラシー）」を身につけ、法的三段論法を用いて、日常の具体的な事例につ

いて文章で表現できることとした⁶⁾。

講義内容としてプレゼンテーションを用いた形式は、ICTの導入初期においては新規性のある形式であったが、今では数多くの講義で取り入れられる形式になったことから、学生にとってこの形式すら旧態依然の講義形式となりつつある。そこで、それらとの差別化を図る上で、2011年度から導入した従来型の知識詰め込み型の講義シナリオを2015年度から反転授業型の講義シナリオへの転換を目指し、法律問題の考察を多く行うアクティブラーニング形式への変更に伴い、教材の内容を見直すとともに、本学のe-LearningシステムであるWebClassを事前・事後学修に取り入れるとともに、2018年度はGoogle Classroomを、2019年度はKahoot!⁷⁾を講義内に導入し、講義の双方向化の充実も目指した。

詰め込み式講義からの脱却として、従来の講義で使用してきたプレゼンテーション及び講義レジュメをWebClass用教材に作り替え、事前学修教材として講義までに実施することを課題の1つとした。講義前の知識定着のため、事前学修の実施を前提とした事前確認テストもWebClassに用意し、成績評価に組み込んだ。講義内ではそれらの知識を前提とした課題についての考察を中心とするため、レスポンスシートを用意した。

講義で学んだことの確認として、講義内ではKahoot!を用いた確認テストを実施するとともに、事後学修の充実を図る目的で、講義終了後にWebClassで確認テストと応用問題としての自由課題を実施し、全てを成績評価の対象とした。

成績評価の変更によって、講義シナリオ導入前の本試験を100点満点で評価し、講義で実施する小テストを最大20点の範囲で加点補正する形式も、シナリオ導入初期の本試験を80点、課題を20点も知識重視型であったものが、反転授業導入後は、評価すべき項目が増えたことから、従来型の本試験の実施を止めるとともに、成績評価基準表を導入することで、学生に評価基準を明確に示すことによって、単なる知識重視ではなく、課題実施を重視していることを明確に示せた。

なお、成績評価基準表導入後もWebClassの解析結果や授業評価アンケートを元に毎年度修正を加え続けている。

(表1：2019年度医学部法学成績評価基準)

2019年医学部法学成績評価基準							
項目	評価基準	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
レスポンスシート	課題が未提出のままである。		誤字、句読点、文法などに関してのエラーが多すぎる。	誤字、句読点、文法などに関してエラーが目立つ。	誤字・脱字、句読点、文法などに関してエラーがわずかにある。	誤字・脱字、句読点、文法などに関して、エラーが全く無い。	レベル4の条件を全て満たした上で、評価をレベル5と判断したことについて教員から質問された時に、自信を持って理由を答えることができる場合、または、教員がレベル5が適当であると認めた場合。
			0.7点 文章ではなく、箇条書きになっている。	0.9点 文章構成がされていない、または単文である。	1.0点 文章構成がある程度されている。	1.2点 段落があるなど文章構成がしっかりしている。	
			0.7点	0.9点	1.0点	1.2点	
			指定文字数の8割未満しか記載されていない。文字数の指定がない場合は、明らかに文章量が少ない。	指定文字数を超過して記載している。文字数の指定がない場合は、文章量が十分とは言えない量しか記載されていない。	指定文字数の9割には満たないが、8割以上は記載されている。文字数の指定がない場合は、一定以上の文章量がある。	指定文字数の9割以上記載し、指定文字数に収まっている。文字数の指定がない場合、かなりの文章量で書かれている。	
4.2点×8回	0点	0.7点	0.9点		1.0点	1.2点	1.4×3=4.2点
評価内容	評価理由が全く書かれていない。	誤字、句読点、文法などに関してエラーが多すぎる。	誤字、句読点、文法などに関してエラーが目立つ。	誤字・脱字、句読点、文法などに関してエラーがわずかにある。	誤字・脱字、句読点、文法などに関して、エラーが全く無い。	レベル4の条件を両方とも満たした上で、自分の見解がしっかりと根拠をもって記載されている場合。	
	0点	0.6点	0.9点	1.0点	1.2点		
	評価がされていない。	評価が不適切である。あるいは評価理由がほとんど記載されていない。	評価は適切だが、評価理由の記載が少ない。	適切な評価理由が記載されている。	適切な評価理由をしっかりとした文章で記載している。		
	2.8点×8回	0点	0.6点	0.9点	1.0点	1.2点	1.4×2=2.8点
事前学修教材	学修履歴がない。	学修開始履歴はあるが終了の記録がない。	学修履歴はあるが利用時間の合計が1分未満である。	学修履歴があり、利用時間が1分以上ある。	学修履歴があり、利用時間が3分以上ある。	学修履歴があり、利用時間が5分以上ある。	
0.9点×8回	0点	0.1点	0.3点	0.5点	0.7点	0.9点	
事前確認テスト	期間内にテストを実施しなかった。	テストを実施したが、一部未解答だった。	テストを1回実施し、全間に解答した。	合格点ではないが複数回実施し、全間に解答した。	合格点に到達するまでテストを繰り返し実施した。	全問正解するまでテストを繰り返し実施した。	
1.6点×8回	0点	0.1点	0.3点	0.7点	1.1点	1.6点	
事後確認テスト	期間内にテストを実施しなかった。	テストを実施したが、一部未解答だった。	テストを1回実施し、全間に解答した。	合格点ではないが複数回実施し、全間に解答した。	合格点に到達するまでテストを繰り返し実施した。	全問正解するまでテストを繰り返し実施した。	
1.6点×8回	0点	0.1点	0.3点	0.7点	1.1点	1.6点	
自由課題	期間内にテストを実施しなかった。	テストを実施したが、一部未解答だった。	テストを1回実施し、全間に解答した。	合格点ではないが複数回実施し、全間に解答した。	合格点に到達するまでテストを繰り返し実施した。	全問正解するまでテストを繰り返し実施した。	
	1.6点×8回	0点	0.1点	0.3点	0.7点	1.1点	1.6点
合計点は100点を越えないものとする		遅刻・欠席の合算			欠席3回	不正が発覚した場合	合計点が60点以上→合格 60点未満→不合格
		遅刻減点		欠席減点	(遅刻2回=欠席1回)		
		1レベルダウン		1回につき-1.5点	不合格		
		1回につき-7.5点		1回につき-1.5点	不合格		

Ⅱ. 教育要項の見直し

2019年度は、医学部はカリキュラム変更に伴い、従来90分×14回で実施していた内容を90分×8回で実施することになった⁸。講義回数減にもかかわらず、到達目標を減らすことなく、同じレベルを維持するために、講義で取り上げるべき内容を減らすことなく、教室での時間だけを削ることにしたため、実施項目の構成を工夫する必要があった。

(表2：医学部講義項目)

2018年度	回数	2019年度
法律とは何か	1	法律とは何か
憲法とは何か(1)	2	憲法とは何か
憲法とは何か(2)	3	民法とは何か
民法とは何か(1)	4	刑法とは何か(1)
民法とは何か(2)	5	刑法とは何か(2)／行政法とは何か
刑法とは何か(1)	6	裁判とは何か
刑法とは何か(2)	7	社会法とは何か
刑法とは何か(3)	8	法政策
裁判とは何か(1)	9	
裁判とは何か(2)	10	
行政法とは何か	11	
社会法とは何か(1)労働法	12	
社会法とは何か(2)環境法	13	
法政策	14	

講義項目を比較すると表2のようになり、初回と最終回以外は2回分を1回にまとめる形になった。このような状況では、法学を専門としない学生に対し、座学のための講義形態で実施してしまうと、受動的になるだけであり、講義回数の減少はすなわち基礎知識の修得量の減少に繋がってしまう。そこで、WebClassによる事前・事後学修を充実することによって、1回あたりの課題を増加させることにより（概ね、2回分の教材を1回分として編集し直した）、教育要綱にある「法的なものの見方（リーガルマインド）」と「法を知りつかいこなす力（リーガルリテラシー）」を身につけるために必要な基礎知識の修得量を、前年度までと同様に確保した。その一方で、それらを身につけ、法的三段論法を用いて日常の具体的な事例について文章で表現するためのレスポンスシートについては、講義内で解説や学生間の相互評価をする時間の確保の点から、課題数を講義回数と同数の14から8に減らした。

今年度の講義回数の減少が学生にどのように評価されたかを分析するため、8回に減少した医学部と14回のままである歯学部それぞれの授業評価アンケート（1から5で評価）において、講義に関する項目（全16項目中7項目）⁹について抽出した。

（表3）にあるアンケート結果は年度ごとの履修者による評価であるため、別の評価者によるものであるが、どちらも1年前期の評価であることに加え、講義回数の違いはあるが、1つ目の項目「授業はよく準備がなされていたか」に関する評価が両学部とも前年度から0.04ポイント減という点で共通していることから、回数減少における評価への影響が考えられる。難易度、学生理解、教材、刺激度、総合評価を比較した。講義回数が前年度と同じであった歯学部では大きく評価を落とす項目がなかった。それに対し、講義回数が6回減少した医学部では、難易度、理解度、総合評価がそれぞれ約

0.2ポイントも評価を下げており、講義回数の減少が影響したものと思われる¹⁰。

(表3：授業評価アンケート結果)

評価項目	医学部		歯学部	
	2018年度	2019年度	2018年度	2019年度
授業はよく準備がなされていたか	4.77	4.73	4.88	4.84
授業の難易度は適切だったか	4.61	4.42	4.63	4.67
授業は学生の理解に合わせて進められたか	4.57	4.37	4.63	4.60
授業の配布資料・教科書などは適切だったか	4.65	4.50	4.71	4.81
学習意欲が刺激される授業内容だったか	4.50	4.44	4.69	4.79
この授業の内容は自分なりに理解できているか	4.44	4.30	4.43	4.61
この授業の総合評価を示してください	4.66	4.46	4.76	4.79

変更した講義内容については、同じ法律についてまとめた回の調整は比較的容易であったが、第7回の社会法のように、90分の講義で労働法と環境法という、ほとんど共通点のない法律を取り扱った回は、講義内容が多岐にわたり、法学を専門としない学生には難易度が上がってしまった。

また、講義をまとめたことで、学生が一番興味深いと考えた項目についても前年度から変化が現れた。

(表4：WebClass 授業改善用 受講生調査-全講義回の中で一番興味深かったのはどれですか)

		19年度医学部	18年度医学部	19年度歯学部
評価者数		77人	79人	47人
法律とは何か		13人	4人	1人
憲法とは何か	(1)	6人	5人	1人
	(2)		4人	2人
民法とは何か	(1)	4人	5人	3人
	(2)		1人	1人
刑法とは何か(1)	(1)	20人	8人	3人
	(2)		1人	1人
刑法とは何か(2)	(3)	6人	4人	5人
行政法とは何か			4人	5人
裁判とは何か	(1)	14人	6人	3人
	(2)		5人	3人
社会法とは何か	(1)労働法	9人	4人	4人
	(2)環境法		19人	10人
法政策・科学技術と法		5人	8人	5人

例年なら一番興味深かった講義は、環境法の回に票が集中しており、今年度の歯学部も同様であったのに対し、今年度の医学部では他の項目に票が散り、第1回のイントロダクションにも多くの投票があった。以上のことから、社会法の回については、例年のような効果がなかったと考えられ、単純に2回分の教材をまとめただけの今年度の内容については、修正しなければならないと考える。

Ⅲ. 成績評価方法の変更と改善

評価方法は毎年改良を加えており、2018年度は全14回の講義を1講義あたり7.3点満点（合計102.2点満点）で評価し、合格点を60点、上限を100点としていた¹¹。2019年度は合格点と上限は前年度と同じとし、全8回の講義を1講義あたり12.7点満点（合計101.6点満点）で評価した¹²。

学生同士の相互評価は、毎回の課題が多いことから、教員が採点する作業量も増えてしまうため導入した。当初、一部から学生同士で正当な評価がされるのかという不安や不満の声があり、実際に理不尽な評価がなされる例があった。しかし、教員が最後に学生の評価をチェックする際に不適切や不可解な評価の修正を行うと説明し、実際に修正を施したことで、不適切な評価はほとんど見られなくなり、次年度以降、説明時に修正を行うことも強調したことで、この点に関しては解消された。

2019年度はレスポンスシートの評価について、今まで行ってきた不適切や不可解な評価の修正だけでなく、時折見られた、内容を精査せず安易にレベル5と評価する¹³ことも無いように、学生による評価の上限はレベル4とし、レベル5については3項目ともレベル4である時に教員が改めて評価する方式に変更した。この相互評価は、学生自身によって振り返りができることや、情報の共有を行えるなど、肯定的な意見が、回数を重ねるごとに出てくるようになった。

事前・事後の学修にWebClassを利用する講義内容は、ログ解析から学生の学修状況を把握できることから、小テストによって知識の定着を確認しつつ、平常点を重視する評価形式を導入できた。さらに、合格点到達に問題のある学生について早い段階で把握できることから、フォローも容易となった。そのため、2018年の解析結果から、事前学修において、事前学修教材を実施せずに事前確認テストを実施するという状況が多く見られたことから、事前学修教材を実施した上で確認テストをさせるため、事前学修の評価を確認テストのみでなく、事前学修教材の実施（教材へのアクセス時間で判断）についても評価することとした。その結果、表5にあるように医学部では事前教材実施数が事前テスト実施数を下回ったのは、第6回と第7回のみであり、平均値では上回っていた。なお、歯学部も昨年よりも改善したものの、表6にあるように、半数の7回で事前教材実施数が事前テスト実施数を下回り、平均値も下回っていた。これは、事前教材実施の評価がテストの評価より低いことから、軽視されている可能性がある。今後の改善としては、事前教材実施の評価を上げる、あるいは事前教材を実施しなければ、事前確認テストの評価をしないなどの対策が必要だろう。また、講義終盤や最終講義後のテスト実施率の低下についても同様な対策が必要と考える。

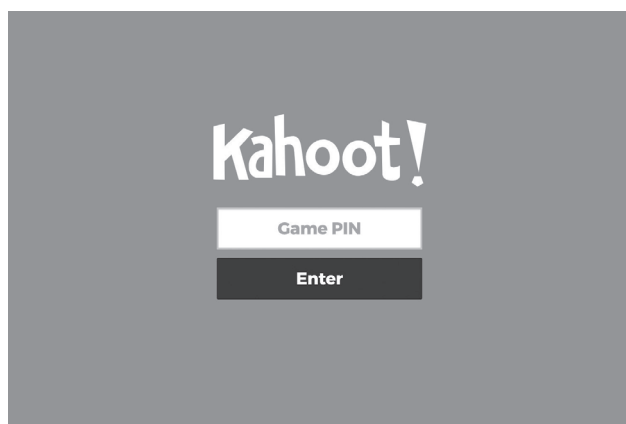
（表5：2019年度医学部 WebClass 実施状況）

	出席者数	事前教材	事前テスト	事後テスト	自由課題	追加資料
1回	126 (100%)	126 (100%)	126 (100%)	113 (89.7%)	109 (86.5%)	77 (61.1%)
2回	124 (98.4%)	124 (98.4%)	120 (95.2%)	105 (83.3%)	97 (77.0%)	74 (58.7%)
3回	125 (99.2%)	117 (92.9%)	108 (85.7%)	110 (87.3%)	110 (87.3%)	59 (46.8%)
4回	126 (100%)	120 (95.2%)	115 (91.3%)	111 (88.1%)	111 (88.1%)	52 (41.3%)
5回	126 (100%)	115 (91.3%)	113 (89.7%)	116 (92.1%)	120 (95.2%)	45 (35.7%)
6回	126 (100%)	111 (88.1%)	113 (89.7%)	118 (93.7%)	102 (81.0%)	40 (31.7%)
7回	126 (100%)	117 (92.9%)	119 (94.4%)	116 (92.1%)	111 (88.1%)	38 (30.2%)
8回	124 (98.4%)	117 (92.9%)	117 (92.9%)	77 (61.1%)	89 (70.6%)	25 (19.8%)
平均	125.4 (99.5%)	118.4 (94.0%)	116.4 (92.4%)	108.3 (86.0%)	106.1 (84.2%)	51.3 (40.7%)

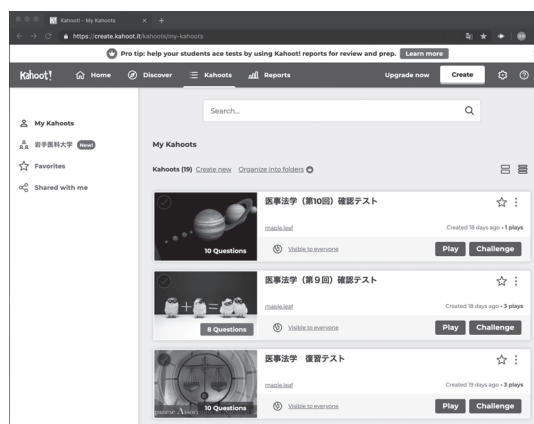
(表 6 : 2019年度歯学部 WebClass 実施状況)

	出席者数	事前教材	事前テスト	事後テスト	自由課題	追加資料
1 回	51 (100%)	46 (90.2%)	50 (98.0%)	39 (76.5%)	40 (78.4%)	39 (76.5%)
2 回	51 (100%)	50 (98.0%)	50 (98.0%)	36 (70.6%)	37 (72.5%)	35 (68.6%)
3 回	50 (98.0%)	46 (90.2%)	42 (82.4%)	36 (70.6%)	35 (68.6%)	33 (64.7%)
4 回	50 (98.0%)	45 (88.2%)	44 (86.3%)	38 (74.5%)	35 (68.6%)	30 (58.8%)
5 回	49 (96.1%)	47 (92.2%)	47 (92.2%)	41 (80.4%)	40 (78.4%)	28 (54.9%)
6 回	51 (100%)	47 (92.2%)	45 (88.2%)	47 (92.2%)	39 (76.5%)	29 (56.9%)
7 回	50 (98.0%)	46 (90.2%)	45 (88.2%)	46 (90.2%)	44 (86.3%)	25 (49.0%)
8 回	51 (100%)	41 (80.4%)	45 (88.2%)	49 (96.1%)	43 (84.3%)	25 (49.0%)
9 回	51 (100%)	45 (88.2%)	46 (90.2%)	47 (92.2%)	41 (80.4%)	19 (37.3%)
10回	51 (100%)	45 (88.2%)	45 (88.2%)	48 (94.1%)	41 (80.4%)	19 (37.3%)
11回	51 (100%)	45 (88.2%)	47 (92.2%)	47 (92.2%)	44 (86.3%)	19 (37.3%)
12回	51 (100%)	44 (86.3%)	46 (90.2%)	45 (88.2%)	41 (80.4%)	16 (31.4%)
13回	51 (100%)	40 (78.4%)	46 (90.2%)	48 (94.1%)	42 (82.4%)	19 (37.3%)
14回	51 (100%)	43 (84.3%)	48 (94.1%)	47 (92.2%)	33 (64.7%)	21 (41.2%)
平均	50.6 (99.2%)	45.0 (88.2%)	46.1 (90.4%)	43.9 (86.1%)	39.6 (77.6%)	24.2 (47.5%)

IV. Kahoot!導入の効果



<https://kahoot.it>



<https://create.kahoot.it>

2018年度にGoogle Classroomを導入し、アンケート形式のみでなくクイズ形式で質問することも可能であることから、学生のレスポンスをリアルタイムで得ることができると説明した。ただ、複数の問題を実施しようとする設定ごとに画面を立ち上げ直す必要があることから、多くの問題を連続して行うには不向きであった。また、GoogleのID登録が必要なことから、既にGoogleのコンテンツを個人的に使用している学生を中心に参加を躊躇う面があり、歯学部が8割近い参加率である一方、医学部は6割程度であり、Google Classroomを導入した講義の内、参加率が4分の1にも満たないクラスがあった。

(表 7 : Google Classroom 参加状況 1 年法学・2 年日本国憲法)

		1 年医学部	1 年歯学部	2 年看護学部
2018年度	履修者数	129	54	42
	最多参加者数	73 (56.5%)	44 (81.5%)	10 (23.8%)
2019年度	履修者数	126	51	実施せず
	最多参加者数	76 (60.3%)	41 (80.4%)	

しかし、今年度から導入したKahoot!は教員が指示するGame PINを入力すれば、スマートフォンのアプリのみならず、Webブラウザでも利用可能なことから、タブレットやパソコンでも参加ができる。また、Google ClassroomのようなID登録の必要もなく（Player名の入力のみ必要¹⁴）参加への抵抗は少ない。そこで、今年度は講義内での複数のアンケートを実施する際と講義終了時の確認テストとして導入した。

(表 8 : Kahoot!参加状況 1 年法学・2 年日本国憲法)

		1 年医学部	1 年歯学部	2 年看護学部
2019年度	履修者数	126	51	42
	最多参加者数	105 (83.3%)	47 (92.2%)	42 (100%)

(表 9 : 2019年度医学部講義回ごとのKahoot!参加状況)¹⁵

	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回	第 6 回	第 7 回	第 8 回	平均
講義出席者数	126	124	125	126	126	126	126	124	125.4
Kahoot!参加数	73	105	99	98	92	85	81	71	88.0
Kahoot!参加率	57.9%	84.7%	79.2%	77.8%	73.0%	67.5%	64.2%	57.3%	70.2%
Webアクセス数	77	74	59	52	45	40	38	25	51.3

Kahoot!は正解数だけでなく解答の速さも評価され参加者のランキングが1問ごとに評価が更新されて画面に表示されることから、当該回の講義内容の復習として用いれば、Kahoot!の解答のみならず、講義全体への集中力が必要となる。また、全問終了後には全員の評価レポートが作成されることから、それをWebClass上で発表することで、Web教材へのアクセス向上を企図したが、今年度は評価対象外としたため、残念ながら効果が薄かった。ただし、スマホが講義用として必要となったからか講義と関係ないことでスマホに気を取られる学生が減少したという効果はあった。

V. 今後の改善点

これまで、講義への積極参加を促す講義シナリオの導入によって、授業評価アンケートの「学習意欲が刺激された」と「総合評価」の項目について、今年度も同じ14回で実施した歯学部では向上が見られた。しかし、講義回数が減少した医学部では両項目の評価を下げており、シナリオの見直しが必要と考え、次の3点について見直す予定である。

1. 講義項目の見直し

医学部「法学」の第8回「法政策・科学技術と法」については、4年次の「医事法学」、あるいは

必修ではないものの「医療と法律」で言及していることから、この項目については取りやめ、第7回「社会法とは何か」を、第7回「社会法とは何か(1)労働法」、第8回「社会法とは何か(2)環境法」に分割し、それぞれの法律についての学習効果を上げる。

2. 事後学修課題の見直し

事前学修が9割以上の実施率に対し、事後学修が8割台であることから、学修内容の定着のためにも事後学修の評価を上げるなどの変更が必要と考える。

3. Kahoot!参加率向上のための見直し

今年度のその場限りのクイズ形式としての利用でなく、受講者全員に参加を義務づけた上で、成績評価に組み込む¹⁶。また、参加を意識づけるため講義の最後だけでなく、講義中に適宜用いる。

¹ 岩手医科大学共通教育研究年報44号77-91頁（2009年）

² 岩手医科大学教養教育研究年報52号63-80頁（2017年）、初年次教育学会第11回大会発表（2018年9月5日酪農学園大学）

³ 公益社団法人私立情報教育協会2012年「大学への提言」－未知の時代を切り拓く教育とICT活用70-81頁の法学分野のICTを活用した教育改善モデルの考察では、法律は様々な分野に亘る問題解決と施策立案の手段として利用されるべきものであることから、分野を越えて他の学問へ展開すること、他の学問の視点や方法を導入すること、またそれらとの協働・融合が求められることとしている。

（ICTを活用した教育改善モデルの考察の法学分野の到達目標）

1. 法に関する基本的知識として、法の全体像を把握し、主要な実定法のルール及び概念について、その意味を理解し、具体例及び定義で説明できる。
2. 法的問題を解決する能力として、事例問題の事実の概要を客観的に把握し、解決の根拠となる法のルールを発見し、それを適用して、妥当な法的解決を見出し、その理由を説明できる。
3. 法の基礎にある、原理を理解して、広い視野から、法を分析的に見ることができる。また、法的知識を活用して、紛争の予防及び生活や社会の発展のためのプランを立案して説明することができる。

⁴ 本学の学生は医療系を専門としているが、法治国家であるわが国においては、法によって社会秩序が保たれることで、社会生活が円滑に行われていることについて、学士力としてだけでなく、社会的常識としても法的知識を確実に身につける必要がある。

⁵ 岩手医科大学教養教育研究年報52号66頁（2017年）

（シナリオ作成の要点）

- ① 考えさせる
- ② 教え込まない
- ③ テキストに頼らない
- ④ 長い映像はダメ（5分程度が望ましい）
- ⑤ 対話する

- ⑥ 学生の反応を見る
- ⑦ 学生のレベルを事前に配慮する
- ⑧ 話し込むのは体験談（出来れば失敗談が望ましい）
- ⑨ 教材準備は惜しまないこと
- ⑩ 実社会との関係を重視
- ⑪ 最先端の研究を盛り込むこと（興味を持つ学生は多い）

6 岩手医科大学医学部2019年度1年「法学」到達目標

法的三段論法

- 1. 法的三段論法について理解し、活用することができる。
- 2. リーガルマインドとリーガルリテラシーにより、法的三段論法を用いて具体的な事例について文章で表現できる。

リーガルマインド

- 1. 法の全体像を把握し、実定法のルール及び概念について、その意味を理解し、具体例及び定義を説明できる。
- 2. 法の基礎にある原理を理解し、広い視野から法を分析的に見ることができる。
- 3. 法の体系と社会の関係について考察し、基本的な法的思考法を身につけ、活用することができる。

リーガルリテラシー

- 1. 社会と人間（憲法を中心とする公法）の関係を説明できる。
- 2. 社会のなかの人間（民法を中心とする私法）を説明できる。
- 3. 社会で遵守すべきこと（刑法を中心とする刑事法）を説明できる。
- 4. 社会のなかの方の役割（裁判員制度や労働法などの社会法）を説明できる。
- 5. 法政策について、法的知識を活用することで、紛争の予防及び生活や社会の発展のためのプランを立案し、説明できる。

7 <https://kahoot.com>ブラウザはGoogle Chromeが使いやすい。

8 歯学部及び薬学部は従来通り14回で実施

9 他の項目は、「話し方は聞き取りやすかったか」、「授業内容を分かりやすく伝える工夫が見られたか」、「授業の板書、スクリーンやモニターの表示は見やすかったか」、「シラバスに記載された授業計画・到達目標は適切だったか」、「授業開始時刻や講義時間など、予定時間を守って行われたか」、「学生の質問や意見を聴く機会が設けられたか」、「授業に教員の熱意が感じられたか」、「この授業に関して費やした自修時間は1コマあたりどのくらいか」、「授業内容について質問や議論を積極的に行ったか」の9つである。

10 2016年以降の総合評価

	2016年	2017年	2018年	2019年
医学部	4.53	4.50	4.66	4.46
歯学部	4.50	4.48	4.69	4.79

講義回数が唯一8回の2019年医学部の評価が一番低評価である。

11 2019年度歯学部は、前年度と同じ14回実施だが、1講義あたり7.2点満点（合計100.8点満点）で評価し、合格点を60点、上限を100点とした。成績は、最高100（100.5点）、最低50点、不合格者1名、平均81.4点。

- ¹² 2019年度医学部成績は、最高100点（100.2点）、最低41点、不合格者1名、平均82.0点。2018年度は、最高100点（101.5点）、最低39点（39.7点）、不合格者1名、平均86.0点。
- ¹³ ある種の談合のように、お互いに高評価を付け合う例も見受けられた。
- ¹⁴ Player名の入力に制限はない。そのため、絵文字や不適切な名称の入力などがなされることがある。評価として用いるなら、Player名に加え出席番号の入力を義務付ける必要がある。
- ¹⁵ 2019年度歯学部講義回ごとのKahoot!参加状況

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回
出席数	51	51	50	50	49	51	50
参加数	47	47	47	47	45	46	43
参加率	92.2%	92.2%	94.0%	94.0%	91.8%	90.2%	86.0%
アクセス	39	35	33	30	28	29	25

第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	平均
51	51	51	51	51	51	51	50.6
44	45	42	44	43	44	44	44.9
86.3%	88.2%	82.4%	86.3%	84.3%	86.3%	86.3%	88.7%
25	19	19	19	16	19	21	24.2

- ¹⁶ 評価方法としては、正答率あるいはKahoot!が用意する得点などいくつか考えられる。